

(^_^)v 趣味に生きる (第26回) ~. ~. ~. ~. ~. ~.

昭和が時を超えて

米田 孝司

(天理医療大学医療学部 臨床検査学科)

◆はじめに

今年第1号の編集後記で弊学の学科長 松尾収二先生が教員や学生への熱い思いを語られました(36巻1号135頁)。私も啐啄同時の気持ちで教え、教えられようと思っています。学生の変化を捉え、学生にフィードバックできるように、また、「ジョハリの窓」を使用して、自分が周囲の人からどう見えているのかを意識したいと思っています。

写真1はその大学の私の部屋の一部です。この写真の中に昭和40年代の地図や絵、ゲーム

スディーンの切手、手作り天理医療大・米田の看板などがあるのがお分かりでしょうか。写真2の右に昭和40年代の小学校近辺の地図を拡大しました。これは先日、私が幹事で42年振りの小学校同窓会(場所はその同級生が八尾駅前の日本料理・笠置の店を経営)をした際に友人が過去を思い出して書いたという地図です。ここには〇〇ちゃんの家、〇〇が売っている駄菓子屋、ビー玉やメンコをした場所などが色々載っていて、私の宝となりました。これらの過去の物がこれから書く、私の宝であり趣味です。



写真1

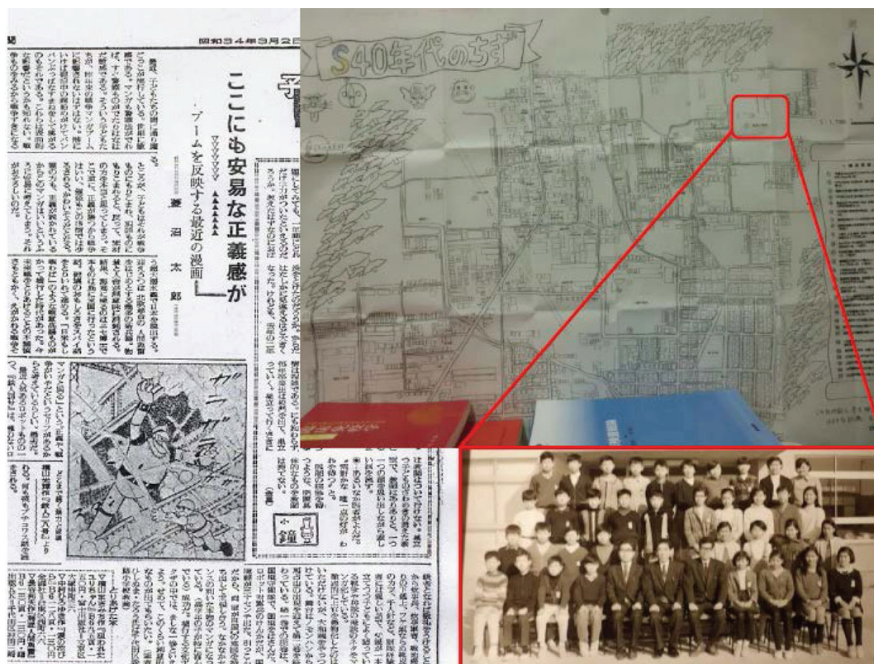


写真2

その前に、読者の皆様はこの顔どこかで見たような、と思っておられませんか。4年前に本誌で「異色の研究者」(32巻4号519頁)ということで紹介して頂いた米田です。国立病院から長浜の研究所に行き、現在は大学で教鞭に立ち、かつ好きな研究をしております。

◆研究は「長嶋茂雄」か「王貞治」か

研究論文はインパクトファクターの高い論文誌に出すのが一番なのか、引用文献として沢山採用される論文を出すのが良いのか。これを米田解釈で、「記録の王か記憶の長嶋か」で例えます。感覚・素質を持ちチャンスに強い長嶋と、努力・鍛錬により素質を開花した王は、音楽家と言うとモーツァルトとベートーヴェンみたいなもので、研究者としてどちらを目指すか。本当は王と思いますが、これは記録も記憶も持ち合わせていない米田が述べるのは説得力に欠けるので、省略します。

因みに、私は昭和33年3月3日生まれで(平成3年に33歳を経験)、3男も3月3日生まれ

なので、昭和33年に誕生した3塁を守る3番バッターの背番号3を背負う男・長嶋を目指して研究したいと思います(これは努力への逃避行か?)。

◆昭和30年代

昭和33年は3月に関門国道トンネル開通式、10月に巨人・長嶋茂雄が新人王、12月に1万円札発行と東京タワーが完成し、即席ラーメンの発売やフラフープが流行した。テレビでは月光仮面・怪人20面相、歌謡曲はおーい中村君・からたち日記、映画は十戒・死刑台のエレベーターがあった。

家では丸いちゃぶ台を囲んで、家族団らん(丸いので上座下座がないのが平等でいい)、我が家にはヒエラルキーはなかった。このちゃぶ台が優れもので、アイロンかけにも勉強机にも早変わりし、場所を取らずに仕舞える。外の路地裏ではメンコやヒーローごっこをし、鉄人28号役の私はゆっくり動き、エイトマン役の友達は速く動けるので、いつも負け役でした。

◆趣味とオタク

今回のタイトルを「時を超えて」とさせて頂きました。というのも、小田和正さんの「雨上がりの空を見ていた、通り過ぎてゆく人の中で哀しみは絶えないから小さな幸せに気づかないんだろ、時を超えて、君を愛せるかほんとうに君を守れるか、空を見て考えてた君・・・」という詩がジーンと来て、とても好きです。が、私の場合は「未来から時を超えてやってきた・・・」漫画です。

私は小学校3年の時から漫画は読まないが、徹夜で漫画を大学ノートに描くのが趣味で、何十冊にもなります。しかし、マンガを読んでいると活字を読まなくなるとか、勉強をしなくな



写真3



写真4

ると言われ、漫画は良くない世相の時でしたので、今は全然残っていません。残念。何しろ、写真2の左の「日本読書新聞」昭和34年3月2日号の記事のように、横山光輝の「鉄人28号」が「どこまで続く暴力と破壊」と書かれた時代です。

社会学者の大澤真幸は、趣味とオタクの違いを「意味の重さと情報の密度の不均衡」と言われています。趣味は意味がある情報なので必然的に集積されるが、オタクは意味の繋がりを持たないので情報の集積自体が目的化すると述べている。今回はその中間かな～。

◆メンコ(べったん)

小学時代から漫画を描くのが趣味と書きましたが、漫画の絵が載ったメンコが大好きでした。路地裏で上級生を相手に毎日やっていました。これは体型に関係なく、勝つためには折り方を変えたりして工夫します。それを誰かが真似すると、今度は油を少し塗って更に工夫して勝ちます。今だったら、私の特許だから真似するな～と言いたくなります。

このメンコの成果が写真3です。家の部屋にばらまきました。見難いので、写真4が拡大したもので、中でも気に入ったものは写真5のようにファイルに入れてあります。中央の物は一番気に入っているジョンウェインとジェームスス



写真5

チュワートの若いころの写真のメンコです。なぜ、洋画の映画俳優が一番かという、勉強もしないで漫画を描きながら(お蔭で、試験前の一夜漬けは得意です)、深夜ラジオの「ヤンタン」「ヤンリク」「バチヨン」の洋楽や洋画内容を聴いたからです。特に、「バチヨンといこう」の浜村 淳さん(木曜日 DJ)の「思いでは映画と共に」のコーナーが好きで、これを聴いて映画を好きになったのかもしれませんが。当時紹介された、H.G.ウェルズ原作の映画・透明人間(1933)で「階段を上る時が難しい」の言葉が深いな—と思いました。盲目ならまだ上れるが、見える人が自分の足が見えなくて、でも有る状態って何だろう—と思いました。

まるで、透明なる自己(シドニー・M. ジュラド)? これは心理学の本でした。

この他にも海外の俳優や日本の役者・相撲力士・野球選手の物もありますが、省略し、写真6のようなテレビで見た記憶が少しある実写版の鉄腕アトム(昭和32年)や鉄人28号(昭和35年)、七色仮面や少年ジェット(昭和34年)、白馬童子や怪傑ハリマオ(昭和35年)、月光仮面

(昭和33年)も大好きなメンコです。これらの収集したメンコをミカン箱2箱に入れていたのですが、全て親に廃棄されていて、隠し持っていた今回の写真のものだけが残りました。残念。

◆漫画を描く楽しさ

私は漫画の顔は基本的に目から描きます。また、漫画の描き方として、まずはストーリー(構想・ストーリーの流れ・ハコ書き・シナリオ・ネーム)を考え、下描き・ペン入れ・ベタ塗りやホワイトがけ・スクリーントーン貼り・完成となります。中でも、ストーリーが効果的になるように計算し、読者が飽きない工夫をし、理解しやすくしないとイケません。絵コンテやネームはストーリーの中でコマ割り、ページ配分、構図を考える作業です。今は続きが見たくなるような研究発表をしないとイケないと思っています。

小さい頃から漫画家か教師になりたくて、医療界に進むとは思っていませんでしたが、きっかけが大事—と思いました。それは人でも物でも良いの—かもしれません。「研究は謎を解き、



写真6



写真7

真実を明らかにし、夢見て行い、考えて祈る」という言葉を耳にした時から、自分らしさを考え、今の道に進むようになりました。また、学生時代に臨床検査値のレベル(↑↓)と病名の表を見た際に、カルテから病名と薬の表を作れば、臨床検査値から薬を結び付けることが出来る。これを基に薬局をやれば他の薬局と差別化できると思い、一旦、臨床検査技師として就職しようと思ったのがきっかけです。しかし、この分野は非常に奥深く広いのに気が付いた時には、この世界の虜になっていました。これも一枚の

表をみたことが、私の人生を決めたのです。

しかし、大学時代も漫画を描いていて、写真7が国家試験受験勉強のため途中で止めたのですが、当時描いていた漫画(手の下にある字は高校から使っている自作サイン)です。

◆ドクターハート

漫画のタイトルは「ドクターハート」です。ストーリーは、若手女医が内科処方での失敗で人が亡くなり、それが大きな組織の人だったので、指を全て切断される。その後、心臓外科医に転向した女医の全ての指にはメス等のオペに必要な物が装着されており、指サックを外すとメスを握ることなく細かな手術が行え、人を救う。一方、復讐するが、失敗し、体を縛られたり、何度か危険になるが、この指で助かり、最後はこの指で相手の顔を突き刺すという物語である。

これは大学時代に考え、スクリーントーンも使い描こうとしていたものです。驚いたのは、国立循環器病センターで働いていた際に、「ドクターハート、ドクターハート、至急、〇〇病棟に行ってください!」というアナウンスです。心臓で危険な状態になると手の空いた心臓専門の



写真8

医師が駆けつけるための放送です。

この漫画は印象的なので、途中でも残しています。今見ると、顔と体のバランスが悪く、オペ着や手術室の風景など情報不足で、漫画家の才能は無いなと思っています。ペンを握り、時計等を置いて撮る(写真7)とそれらしく見えます。

◆フリーマーケット(ガレージセール)

この時計(写真7)はユニバーサルスタジオジャパン開設記念限定時計だそうで、600ブースの万博フリマ(写真8)にて5,000円で購入し、愛用しています。私はフリーマーケット(Flea Market)に行くのが大好きで、毎週日曜日には昭和レトロ物を集めた懐かしい物を買に行きます。新品を買うことに慣れている我々は汚らしいイメージがありますが、意外と合理的で、面白さもあり、病みつきになります。私の買い方はまず物を見るより売っている人を見ます。体形、年齢、オタクっぽい、着ているものが良いかで服やレトロ物を買いますが、電化製品は買いません。でも、思わぬ掘り出し物が安値で見つかり、交流も楽しめるのも魅力の一つです。私の家族も良く子供の着なくなった服やおもちゃ等を整理するために出店し、「こんにちは」「いらっしやい」の挨拶も苦手だったのが、普

通にできるようになりました。ここでコミュニケーション能力を得たのかも。チーム医療にも役立つかなー。

因みに、アメリカでのリサイクルは週末のガレージセールで、引越しの時、家具を買い換えた時、不用な物を捨てる時に家の前や庭に置いておくと、興味ある人が買いに来るというものです。車庫等の個人宅で不用品を出すならガレージセール、庭ならヤードセール、物々交換が発展した青空市場ならスワップミートだそうでフリーマーケットは「ものは、使える限り大切に」ということだそうです。私は日本の商売風よりもアメリカ風がいいですが、家人にとってはゴミでも私にとってはお宝ゲットはとても嬉しいです。写真1のジェームスディーンの切手もそうですが、彼のポスター、看板、筆箱、本などもフリマで買いました。

◆鉄人28号と模型

写真9は、フリマで購入した昭和アニメソングのソノシート(薄いレコード盤)4枚をバックに、鉄人と自衛隊が戦うシーンを模型で作製しました。鉄人の人形は前職の長浜で単身していた時に長浜フィギュアミュージアムで買ったもので、そこでは色々合体して展示されているもの



写真9



写真10

があり、それを真似してこの模型を作りました。

また、写真10は、新長田駅の横山光輝の店で買ったワッペンやフリマで買ったプリントシートをバックに、昭和の家や風景を基に作った模型(三輪自動車のミゼットが見えにくいけどカッコいいです)です。本当は鉄人が昭和の家や車を破壊するシーンを作りたいのですが、勿体なくて止めました。

◆鉄人 28号 の魅力

今回良く名前が出る鉄人 28号について、名前の由来は日本を廃虚と化した爆撃機「B-29」やフランケンシュタインの大きくて強いイメージから作成されたそうです。武器を持たず、最初は飛ぶこともできないが、警戒な動きで戦う。なのにリモコンレバーは2本だけ、リモコンはすぐに敵の手に渡ってしまい悪者になる。主題歌でも「いいも悪いもリモコンしだい、鉄人、鉄人、どこへ行く〜」って、なんと無責任なロボットだ。危機管理は、どないなっとるんやー。鉄腕アトムやエイトマンみたいに自分で考えて行動しろ！とは思わない。その相手任せで、不器用で、西洋兜をかぶったような顔と寸胴な体が自分に似ており大好きです。

これからは本体も操縦器も GPS を付けて、も



写真11

し、悪に操縦器を取られてもパスワードで動くなり、危機管理をもう少し勉強して欲しいものです。でないと、原動力が原子力に頼っている機械を日本人としては不安で仕方がないです。Eco な鉄人を今後は見たい〜??? という、妄

想を抱きながら、フリマで昔の鉄人を買いたり、それらを玄関(写真11)に飾っており、猫のお気に入り場所です。たまに来られたお客さんが見て、共感されるのが嬉しい。

◆教育は「鉄人28号」か「鉄腕アトム」か

自分が講義・教育をする立場になり、学生と一体となって教えているのか、上からでなく学生のところまで降りて教育しているのか、学生の理解度を把握できているのか、教育職1年目として考えさせられます。ここで、また米田解釈で、「操縦者によって動く鉄人28号、自己判断で行い心を持つ鉄腕アトム」で例えます。

私は学生への教育は鉄腕アトムを作るようにしたいと考えています。では、患者さんの場合はどうでしょうか。アトピーや生活習慣病の患者さんは決められた服用や食事等で治療しないといけないので、鉄人28号を作るような感じですが、統合失調症(分裂病)・精神発達遅滞(知的障害)・自閉症の患者さんの教育は心を持つ鉄腕アトムを作る気持ちが必要だと思います(この話は長くなるので省略します。)

◆最後に

最初考えていたコンセプトと違い、書いている途中から方向が変わりました。レトロ(ウイルスではありません)やアンティークの物の発掘からマンガ中心になってしまいました。当初はタイガースファン(優勝した時に本誌編集後記でも書いたのですが)として鉄人は金本選手ということで話題を広げるつもりが、引退しちゃったので止めました。

趣味はスポーツ、料理、楽器演奏などがカッコいいのですが。漫画を読書やグラフィックデザイナーと言っておまかせしていましたが、両親も妻も知らない秘密を書いてしまいました。これで履歴書の趣味には漫画と書けそうです。また、少し恥ずかしかったですが、学術雑誌に載せて貰ってとても満足しております。

前職場の長浜も現職場の天理も昭和を思わせる風景が多く、大阪からの電車通勤は毎日タイムスリップをしているようで、毎日が時を超えてです。昔に戻って透明な気持ちで学生に接したいと思います。

追記：写真12は私の授業で使った漫画です。



写真12